

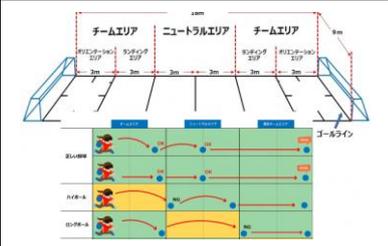
令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 大野城市立御笠の森小学校 】

1 実践テーマ	①・II・③・IV・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第6学年・2クラス・69名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックの意義について理解させるとともに、パラリンピック種目の一つであるゴールボールを実際に行うことを通して、スポーツを楽しむ心の育成を図る。
5 取組内容	(1) 事前学習(1時間) ○パラリンピックの意義や歴史、競技の種類等についてプレゼンを用いて説明 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 1948年 ロンドンオリンピック…戦争で負傷した兵士たちのリハビリ 1952年 国際大会 1988年 ソウルオリンピック…「パラリンピック」が正式名称 ・下半身麻痺者を表す「パラプレジア」の意味から、ギリシア語の「パラ」と「オリンピック」を掛け合わせた言葉に変更 ・福祉的側面と競技的側面をもつようになった。 2021年 東京パラリンピック…22競技539種目 </div> ○ゴールボールのルール説明 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

(2) ゴールボールの実践 (1時間)

○1クラスずつ1時間



(3) 事後学習 (課外)

○ゴールボール実践後の感想

学習の感想 (2つの授業を通して学んだこと・大げだと思ったこと・楽しかったことなど)

実際にゴールボールをする前にゴールボールがどんな競技なのかを失っていました。光をこぼさないコートをついて音の位置を覚める練習をたよりにボールを止めて、パラリンピックにつかわれているボールは、2kgと重いということが分かりました。実際にボールを止めるのは、たけとたけに慣れてきて、これより楽しい気持ちの方が強かったです。ゴールボールをして、視覚障害のある人が、これほど日常生活に音が重要なのか、大変さを知りました。これから見えなくて困っている人がいたら、音を助けて声をかけて、且つけてあげようと思いました。

学習の感想 (2つの授業を通して学んだこと・大げだと思ったこと・楽しかったことなど)

パラリンピックのゴールボールを体験してみても、この競技では耳をすましておこなうスポーツだということや目が見えなくなっているのでもっと難しいスポーツだということが分かりました。また、パラリンピックの歴史や目や体にしょうがいがない人でも楽しむことができることと知ったので、おもしろそうだなと思いました。これからパラリンピックの競技を見るきっかけがあたり見てみたいなと思いました。

6 主な成果

○パラリンピックの意義や歴史について説明したり、ゴールボールを実際に行ったりしたことによって、パラリンピックの競技に対する興味・関心を向上させることにつながった。
 ○ゴールボールを行ったことで、視覚障がい者の方の日常生活での不安や困りに思いを馳せたり、競技を行うために努力を重ねた素晴らしさを実感したりすることができた。
 ○スポーツに苦手意識をもっている子どもがスポーツの楽しさを感じ、「昼休みにもゴールボールを行いたい」と積極的に取り組むほど、意欲を高めることにつながった。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

本校は、開校以来、体育科学習の授業研究を行っており、指導方法工夫改善担当の教員と担任の2人体制で体育科の授業を行っている。本実践においても、ゴールボールを行う際に2人体制で授業を行うことで、よりきめ細やかな指導ができるようにした。

8 主な課題等

体育科だけでなく、福祉の内容を取り扱う総合的な学習の時間等と関連付けることで、より教育的効果が得られると考える。

9 来年度以降の実施予定

第6学年において、パラリンピックの意義や歴史について学び、ゴールボールを実践する学習を行う。

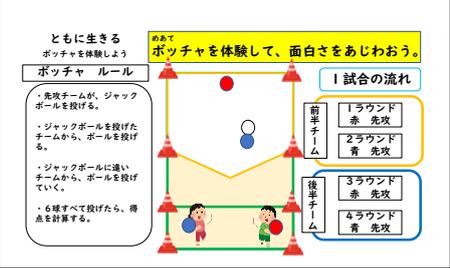
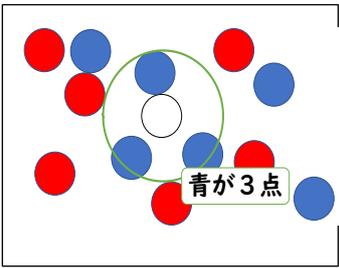
令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

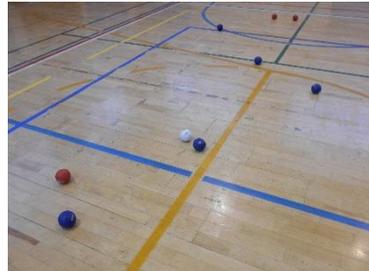
道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 大野城市立御笠の森小学校 】

1 実践テーマ	I・II・ III ・IV・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第4学年・2クラス・67名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○障がいのある方々の生活の様子を知り、共に生きる社会をつくらうとする心情の育成を図る ○パラリンピック種目の一つであるボッチャを実際に行うことを通して、スポーツを楽しむ心の育成を図る。
5 取組内容	(1) 事前学習(1時間) ○ボッチャの特徴やルール説明 <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div>

(2) ボッチャの実践 (2時間)

○1クラスずつ2時間実践



(3) 事後学習 (課外)

○ボッチャ実践後の感想

- ・初めてボッチャをしてみると、ルールが覚えやすくてすごく楽しかったです。
- ・白いボールに近づけたら、チームのみんなで喜び合っとても盛り上がる競技なので、またやりたいと思いました。
- ・ボールの投げ方を強くしたり弱くしたりして工夫すると白いボールに近づけたり、相手のボールをはじいたりすることができるようになりました。
- ・障がい者の人も楽しめるし、みんなで一緒に楽しめて、すごくいいスポーツだと思いました。

6 主な成果

○ボッチャを行うことで、ボッチャのおもしろさを味わうとともに、障がい者も健常者も一緒に楽しむことができるボッチャの特徴(よさ)を感じることができていた。
○繰り返し行うことで、ボッチャのボールの重さや転がり方の特徴をつかみ、チームで作戦を立てたり投げ方を工夫したりするなどして、技能や思考力を高めることにつながった。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

本校は、開校以来、体育科学習の授業研究を行っており、指導方法工夫改善担当の教員と担任の2人体制で体育科の授業を行っている。本実践は総合的な学習の時間として行ったが、2人体制で授業を行うことにより、よりきめ細やかな指導ができるようにした。

8 主な課題等

総合的な学習の時間の福祉の内容に関するカリキュラムを位置付け、その单元の中に「ボッチャ体験」を含めて单元計画を作成しておくこと、継続していくことができると考える。

9 来年度以降の実施予定

第4学年において、ボッチャの学習を行う。もしくは、クラブ活動の中でボッチャを行う。